

いやいやえん



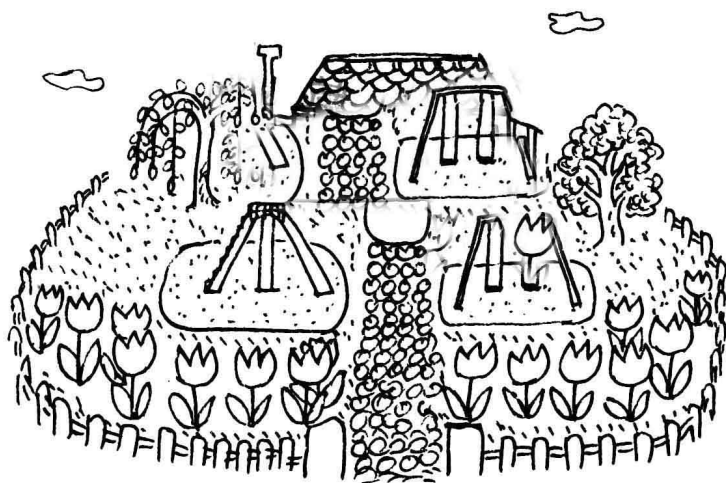
中川李枝子 さく 大村百合子 え

子どもの本研究会 編集

いよいよえん

中川李枝子さく

大村百合子え



福音館書店

いやいやえん



1962年12月25日 初版発行

2000年7月5日 第100刷

著者・中川李枝子

編集・子どもの本研究会

発行・福音館書店

郵便番号 113-8686

東京都文京区本駒込 6-6-3

電話 販売部(03)3942-1226

編集部(03)3942-9265

印刷・精興社

製本・島田製本

NDC 913/177p/22cm

©1962 Rieko Nakagawa/Printed in Japan

ISBN4-8340-0010-9

●乱丁・落丁本は、小社制作課宛ご送付ください。

送料小社負担にてお取り替えいたします。

もくじ

ちゅーりっぷほいくえん

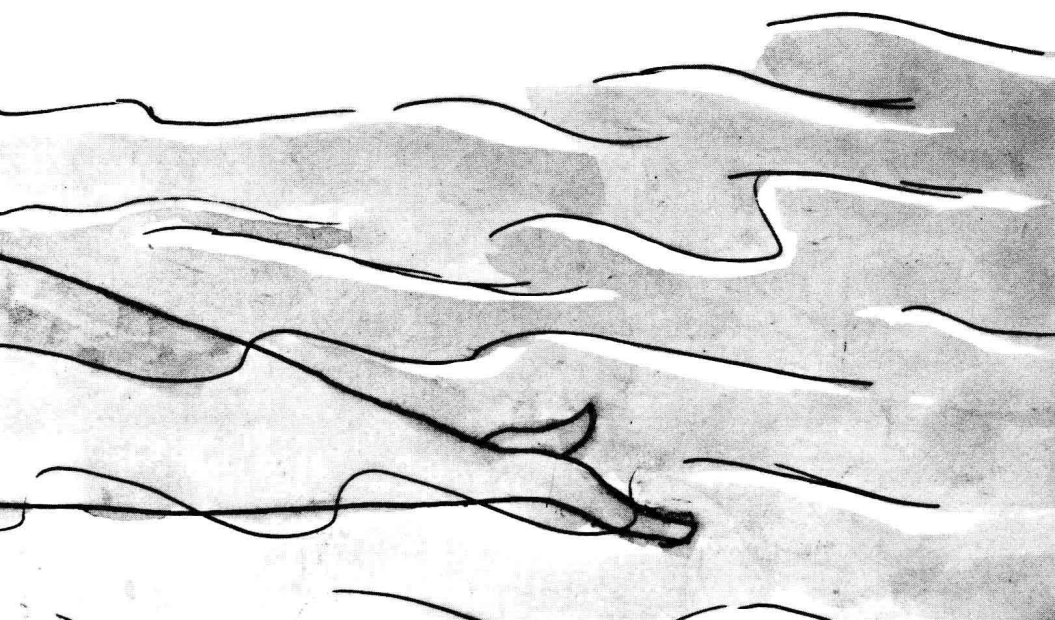
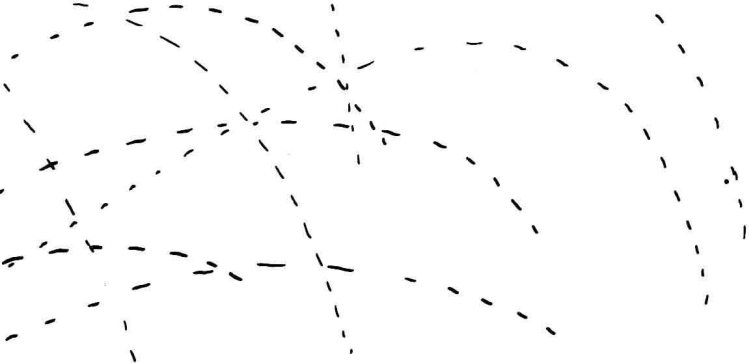
I

くじらとり II

ちこちゃん 43

やまのこぐちゃん 65

おおかみ 83

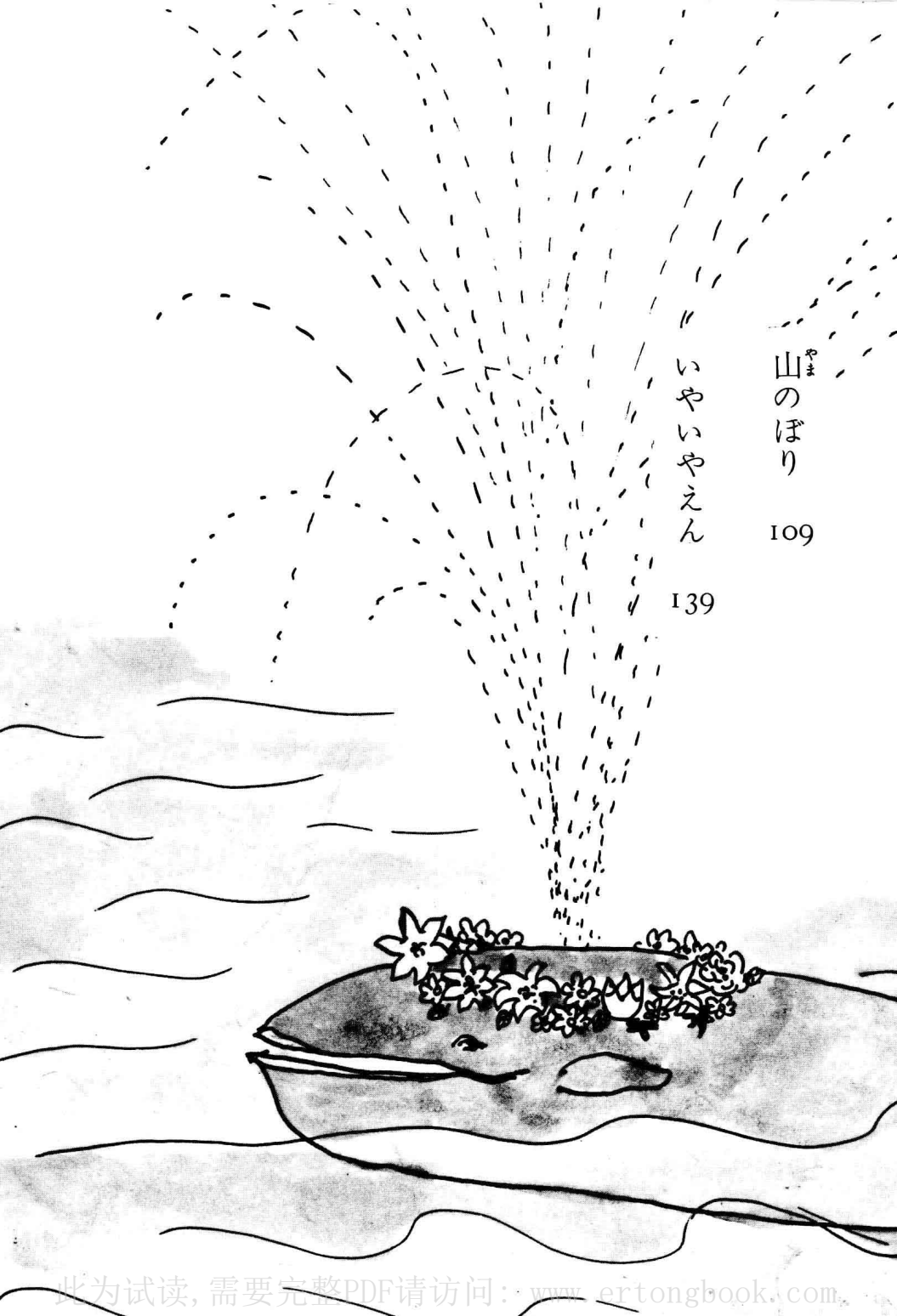


山^{やま}のぼり

109

い
や
い
や
え
ん

139



ちゅーりっぷ ほいくえん

ちゅーりっぷほいくえんには、子どもが三十人さんじゅうにんいます。

その中なかの十八人じゅうはちにんは、ほしぐみ、十二人じゅうににんは、ばらぐみです。

ほしぐみというのは、らいねん、がつこうへいくぐみです。すから、みんないばっています。

ばらぐみというのは、らいねん、がつこうへいけないぐみで、三つみつの子こも、四つよつの子こもいます。

しげるは、四つよつです。

「ほしぐみはいいなあ。ぼくもほしぐみになりたいなあ。」



と、ばらぐみのしげるは、いつもおもって
います。

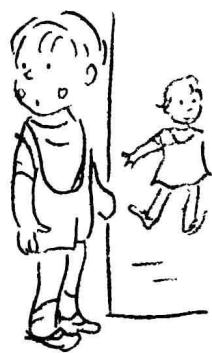
ほしぐみのへやと、ばらぐみのへやは、と
なりそうです。

ほしぐみは、いばったかおで、ばらぐみにいいます。

「ほしはこっち、ばらはあっち！ 小さい人は、あっちへいってください
い！」

まい日、おべんとうがおわると、ほしぐみは「じのほん」、ばらぐみは、
「えのほん」をせんせいによんでもらいます。

「じのほん」は、じがいっぱいあって、ながいおはなしです。「えのほん」
は、えがいっぱいあって、じはちよっとしかありません。



「ほしぐみはいいなあ。」

と、ばらぐみのしげるは、いつもおもいます。

ちゅーりっぷほいくえんには、せんせいがつたりいます。

せいのひくい、はるのはるこせんせいと、せいのたかい、なつのなつこせんせいです。

「はるのせんせい、小さいから、ばらのせんせい、なつのせんせい、大きいから、ほしのせんせい、いつまでたっても、はるのせんせい、ばらぐみで、

いつまでたっても、なつのせんせい、ほしぐみだ。」



と、ちゅーりっ
ふほいくえんが、
できたときから、
きまつているので

す。

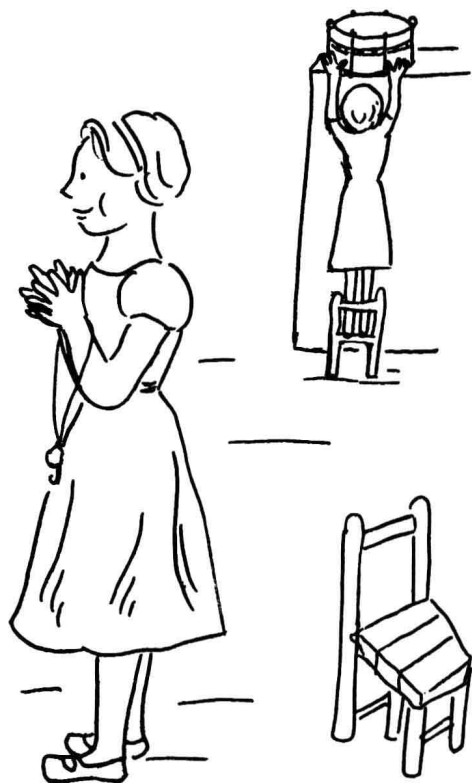
いちばん上^{うへ}のた
なから、がくたい

のたいこをおろすとき、はるのせんせいは、いすにのります。なつのせんせいは、せいのびをします。

でも、ふたりのせんせいは、おなじところがあります。

それは、すぐ、しげるをものおきにいれようとすることです。

ものおきは、くらくて、いやなおいがします。ここは、わすれたやくそくをおもいだすばしよでした。



「しげるちゃん！ おかたづけのときに、すもうをしていいのですか？ ものおきで、かんがえていらっしやい。」

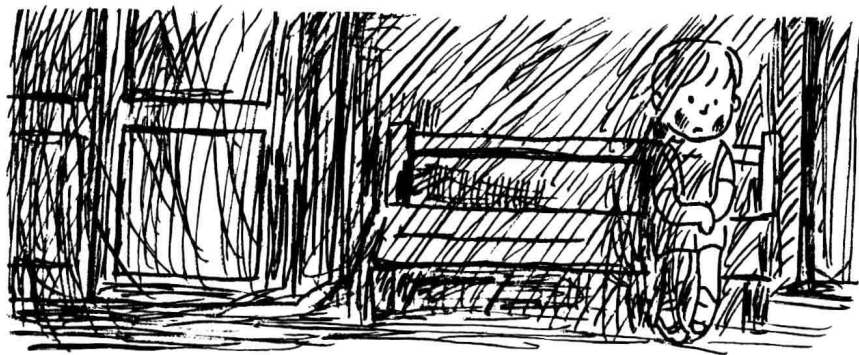
「しげるちゃん、まどにのっていいのですか？ ものおきで、かんがえていらっしやい。」

「しげるちゃん、おともだちを、けつとばしていいのですか？ ものおきでかんがえていらっしやい。」

「ものおき」ときいただけで、しげるは、やくそくをおもいだします。そして、

「わかったよう、わるいことですよう。ものおきにいなくなつたつて、わかつたよう！」

と、にげてしまいます。



ちゅーりっぷほいくえんには、やくそくが七十ななじゅうぐらいもあります。い
ちばん、たいせつなのは、

なげないこと。

ぶたないこと。

ひっかかないこと。

の三みつつです。あとは、

はをみがくこと。

かおをあらうこと。

てをあらうこと。

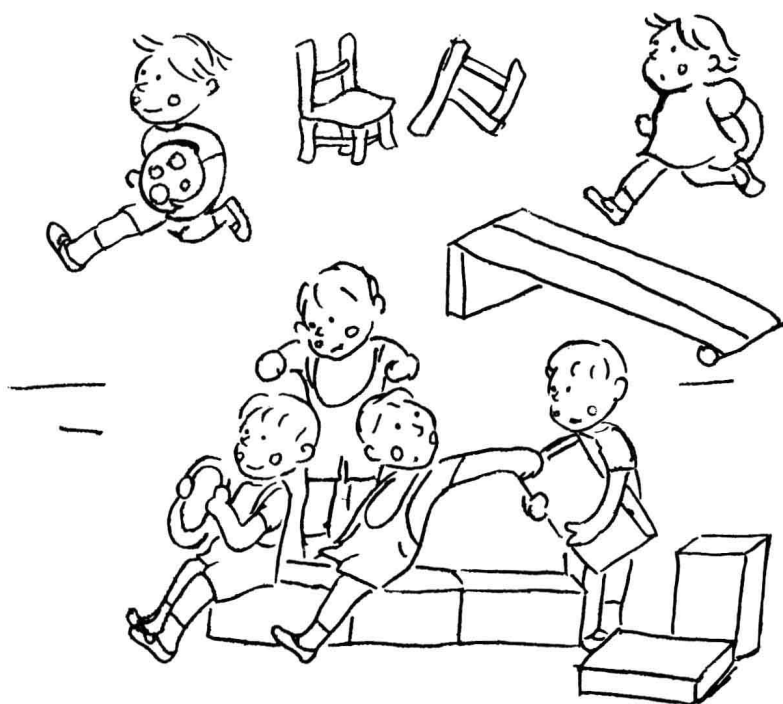
つめをきること。

ひとりでようふくをきること。



ならばときは、まえの人^{ひと}をお
したりよこはいりしないこと。
だれとでも手^てをつなぐこと。
すききらいをしないこと。
ようふくやくれよんをたべな
いこと。
あそんだあとは、かたづける
こと。
よばれたら、「はい」というこ
と。

……まだまだありますが、みんな、「なあんだ、かんたんなことばっ
かり！」です。





それなのに、しげるは、きょう一日で、十七いちにち
かいも、やくそくをわすれ、「しげるちゃん！」
と、せんせいによばれ、にらまれました。

- 1 かおを、あらわなideきました。
- 2 ゆびを、しゃぶっていました。
- 3 はなくそを、なめました。
- 4 はさみをもって、はしりました。
- 5 つみきのとりっこをして、ともだちをはたきました。
- 6 ちゃんばらのとき、ともだちをけつとばしました。
- 7 うわばきを手てにはいて、かおをなでました。
- 8 かみのけについたかみくずを、ほうきではきました。
- 9 おにんぎょうを、なげました。

10 ぬれた手で、はくしゆしました。

11 せんせいがおはなしをしているとき、くすぐりっこをしました。

12 うたをうたうとき、めんどくさいので、ねていました。

13 「ばかやろう」といいました。

14 おべんとうのとき、わざと、にんじんをおとしました。

15 ろうかを、はしりました。

16 おもちやを、よこどりしました。

17 はなかみを、まどからすてました。

こんなにたくさんわすれましたが、ものおきにいくまえに、みんなおもいだしました。

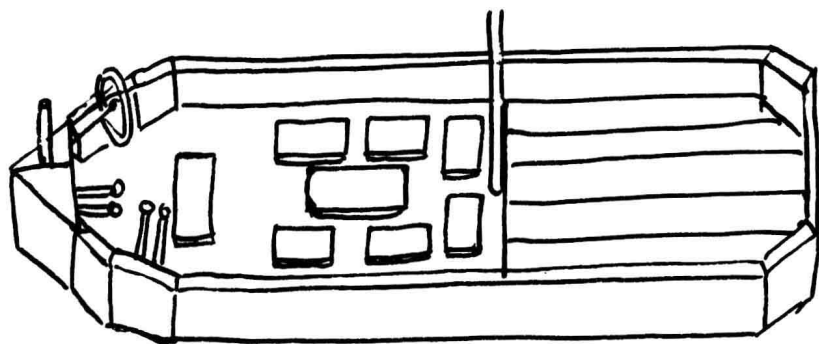


くじらとり

ほしぐみのおとこの子^こたちは、つみきでりっぱなふねをつくりました。ふねのさきはとがっていて、そこがうんてんしつです。うんてんしつには、赤^{あか}やきいろのきかいがたくさんあります。

うんてんしつのうしろはせんしつで、てーぶるといすがならんでいます。

せんしつのつぎは、かんぱんです。





「わあ、すごい。りっぱなふねだなあ。」
と、しげるはびっくりしました。

「ぼくものりたいなあ。」

しげるは、さんかくのさきにさわってみました。すると、かんぱんからせんいんがとんでき

て、

「さわっちゃだめ！ ほーら、こわれちゃったじゃないか。」

と、どまりました。しげるのさわったところに、すきまができてしまったのです。

「ふねにあながあいたら、水がはいってしずんじゃうんだぞ。」

せんいんは、しゃがんで、ていねいにおしました。

「ごめん——。ごめんっていったから、もういいでしょ。ぼくものせてよ。」